

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
ピアノ演奏法 I Piano performance method I		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(保育士養成課程必修)	こどもフィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
音楽表現				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教職課程（幼稚園教諭二種）、保育士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名		研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
岡泉志のぶ 中沢充恵 西尾幸子 廣澤真緒実 古屋知恵		講義棟3階 講義棟1階	月・水・木・金	授業中に指示します
授業の概要				
子どもの幼児期の成長過程における音楽教育は非常に重要であり、多くの保育園、幼稚園で音楽は生活全般に取り入れられている。この授業では、保育の現場に必要な基礎的なピアノ奏法、テクニック、伴奏法の習得を目標として、ピアノ未経験者も初心者もバイエル教則本を使用し、それぞれのレベルに合わせた指導を個人レッスン形式で行う。また個々の進度に合わせた課題を与えることにより、音楽的な表現活動の指導が出来るためのピアノ基礎技術の習得を図る。				
授業の目標				
①保育現場にピアノ技術は必須であるという意識を持ち、ピアノの練習を習慣化できるようにする。 ②音楽に関心を持って授業に臨み、ピアノ演奏を通して表現する楽しさを味わうことができるようにする。 ③音楽の基礎理論（音符や休符、リズム、拍子、記号、調）を覚えて、幼児曲を伴奏することができるようにする。 ④授業内容に沿った指導を受けて、バイエル教則本70番台の曲を終了することができるようにする。				
授業の方法				
演習（実技）科目であり、個別指導を基本として個人レッスン形式で行う。その際、各学生の能力に応じた教材や進度を的確に判断し、個々に適した以下の授業内容と方法で進めることとする。以下には、標準的（ピアノ未経験者、初心者に適した）授業計画を示す。				
学習の成果（学習成果）				
①ピアノの基本である読譜力をつけることができる。 ②ピアノ練習の習慣化が身につくことで、ピアノを弾くことの楽しさや達成感を得ることができる。 ③基本的な伴奏法を用いた簡単な幼児曲の伴奏や他の楽曲を演奏することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	全体オリエンテーション：授業概要、評価方法の説明、受講する際の注意、各自の練習方法について 担当者別：各自の教材の選定と課題			
第2回目	右手ト音記号の音符と奏法（音符、休符の種類と長さ：4分音符、2分音符、全音符等）			
第3回目	左手ヘ音記号の音符と奏法（リズムと拍子）			
第4回目	運指法：指の運指と伴奏法（両手の奏法）速さ・強さに関する表示法、曲想・奏法に関する表示法			
第5回目	ハ長調の理解と各曲の習得①（バイエル40番～50番程度）楽譜の確認			
第6回目	ハ長調の理解と各曲の習得②（バイエル40番～50番程度）リズムと拍子			

第7回目	担当者別：グループ演奏発表と講評	
第8回目	調性の違い（長調と短調）	
第9回目	ト長調の理解と各曲の習得（バイエル50番程度） 幼児曲：簡単な伴奏法を用いた簡易伴奏法①	
第10回目	ハ長調の理解と各曲の習得（バイエル60番程度） 幼児曲：簡単な伴奏法を用いた簡易伴奏法②	
第11回目	音楽実技試験課題曲の指導（バイエル60番程度以上） ハ長調とイ短調	
第12回目	音楽実技試験課題曲の指導①（バイエル70番程度以上） 音楽性とその表現	
第13回目	音楽実技試験課題曲の指導②（バイエル70番程度以上） 楽曲の完成	
第14回目	実技試験（各自発表） 実技試験の講評と幼児曲課題提示	
第15回目	課題曲指導日常のうた（曲例） 朝のうた さよならのうた	
事前・事後学習	提示された曲を完成させられるよう練習する時間を定めて課題に取り組み、完成した曲も継続して弾く。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	毎回与えられた課題を練習して授業に臨んでいる。
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	50%	担当教員全員の前で1曲を暗譜で演奏し、曲の難易度と表現力で採点する。担当教員5人が全ての学生の採点をし、その平均点を評価とする。（楽譜の読譜力、表現力等）
その他	20%	曲の進度による評価をする。初心者でもバイエル70程度を弾くことができ、幼児曲伴奏に繋がることができる。
教科書と参考図書		
テキスト：ピアノ未経験や初心者の学生はバイエル教則本（全音楽譜出版社）、それ以外の学生は進度に応じてブルグミュラー25番の練習曲、ソナチネアルバム、ソナタアルバム（全音楽譜出版社）、他の楽譜を使用する。		
履修上の留意点・ルール		
使用教室（MR I、MR II、レッスン室）では、飲食持ち込み禁止とする。 毎回、各学生の進度に適した曲が課題となり、次回の授業でその曲の個人レッスンを受ける。		